

目次



本調査の特徴	3
調査概要	4
分析にあたって	5
基本属性	6

巻頭言	教育改革の四半世紀と学生の変化	7
	大阪大学 教授 川嶋太津夫	

1	【データを読む】 8年間の学生の変遷からみえる大学教育の成果と課題	17
	ベネッセ教育総合研究所 研究員 松本 留奈	

2	学生エンゲージメントが拓く大学教育の可能性	30
	～改めて「誰のための」「何のための」教育改革かを考える～	
	京都大学 准教授 山田 剛史	

3	大学における“つながり”の重要性	40
	芝浦工業大学 准教授 谷田川 ルミ	

4	学びを触発する大学での教育経験	49
	～高校から大学にかけて態度変容が見られた学生に着目して～	
	ベネッセ教育総合研究所 研究員 佐藤 昭宏	

5	「生徒化」している大学生と「学生化」への移行	58
	青山学院大学 教授 杉谷 祐美子	

本調査の特徴



本調査は大学生を取り巻く社会状況や教育環境が変化するなかで、大学生の学習・生活全般にわたる意識や実態をとらえることを目的に実施している。同じ目的で実施した過去2回の調査（2008年、2012年）と経年での比較ができるように配慮して、今回の調査を設計した。

本調査の特徴は以下のようにまとめられる。

1. 大学生の学習・生活全般にわたる意識や実態を幅広くとらえることができる

大学の授業、生活時間、部活動・サークルへの参加、アルバイトの実施状況、友人との付き合いなど、大学生生活全般の内容を幅広く質問しており、大学生の全体像をとらえることができる。

2. 学習と生活実態との関連を把握することができる

大学生の学習行動・意識と生活実態との関連をみることができる。また大学生の学習行動を、高校までの学習行動や受験経験とも関連づけてみることができる。

3. 経年比較に配慮した調査設計により時代の変化を把握することができる

大学生の変化を継続的にとらえるために、経年比較が可能となるよう調査設計をしている。これにより学生の学習・生活全般にわたる基本的な項目について8年間の変化をとらえることができる。

4. 教育環境の変化に対する意識・行動をとらえるために新規項目を追加している

大学生を取り巻く社会状況や教育環境の変化、課題認識の変化などにあわせて、一部調査項目の改訂や追加も行っている。2016年の調査では、大学の理念やポリシーに対する学生の認知・理解、投票行動をたずねる項目などを追加している。



調査概要

●調査テーマ

大学生の学習・生活に関する意識・実態

●調査目的

大学生の学習・生活全般にわたる意識や行動を多様な観点からとらえ、大学生の実態を明らかにし、大学教育を中心としたこれからの大学生を取り巻く環境を考えていくための基礎データとして活用すること。また、広く一般に結果を公表し、社会に還元すること。

●調査方法

インターネット調査

●対象と抽出方法

全国の大学1～4年生 4,948名

	1年生	2年生	3年生	4年生	計
男子	670	670	670	670	2,680
女子	567	567	567	567	2,268
計	1,237	1,237	1,237	1,237	4,948

インターネット調査会社の約420万人のモニター母集団のうち、「大学生」として登録されている約15万人に対して予備調査を実施。このうち、大学1～4年生（18～24歳、日本在住）にアンケートの協力を依頼。文部科学省の『平成28年度学校基本調査（速報）』の男女比率に近いサンプル構成を目指して回収を行った。

●調査時期

2016年11月18日～12月20日

●調査項目

高校での学習状況／大学選択で重視した点／大学の志望度／入学時の期待／大学生活で力を入れたこと／大学生活の過ごし方／履修科目数／評価／教職員との交流／保護者との関係／友だち関係／大学教育観／学びの機会／学びに対する姿勢・態度／大学生活で身についたこと／海外留学の意向／進路意識／建学の精神やポリシーの認知／大学生活の満足度／学びの充実／成長実感／社会観・就労観／投票行動 など

●過去の調査

	実施時期	対象	調査方法
第1回	2008年10月上旬	大学1～4年生4,070名 (男子2,439名、女子1,631名)	インターネット調査
第2回	2012年11月上旬	大学1～4年生4,911名 (男子2,791名、女子2,120名)	インターネット調査

分析にあたって



本報告書を読む際の留意点

- ① 本報告書では、調査対象者が所属している「学部系統」を以下のとおりの区分に分けて分析している。

学部系統の区分

区分	調査票で示した学部系統
人文科学	人文系統（文学、心理学、文化学など） 外国語学系統（外国語学部など） 国際学系統（国際関係学、国際情報など）
社会科学	社会学系統（社会学部、社会福祉学部など） 法学系統（法学、政治学、政治経済学など） 経済学系統（経済、経営、商学部、流通学など）
理工	理学系統（理学部、生命科学、地球環境など） 工学系統（理工学部、システム工、情報工など）
農水産	農学・水産学系統（農、水産、生物資源、獣医、酪農など）
医・薬・保健	保健衛生系統（保健、保健医療、看護、看護医療など） 医学（医学部） 歯学（歯学部） 薬学系統（薬学部など）
教育	教育学系統（学校教育学など）
その他	生活科学系統（家政、食物栄養、人間発達、保育など） 芸術系統（造形、音楽など） 総合科学（総合）系統（総合科学、教養、環境情報など）

- ② 特別な注記がない限り、本報告書の分析に用いた数値は、有効回答数4,948名を母数として算出している。また本報告書で使用している百分比（%）は、有効回答数のうち、その設問に該当する回答者を母数として算出し、小数点第2位以下を四捨五入して表示した。四捨五入の結果、数値の和が100にならない場合がある。各図表内の（ ）内の値はサンプル数を表す。



基本属性

ここで説明する基本属性は、有効回答数4,070名（2008年）、4,911名（2012年）、4,948名（2016年）を母数としている。

図1 性別

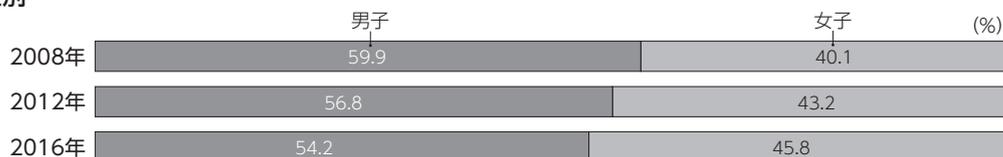


図2 設置者

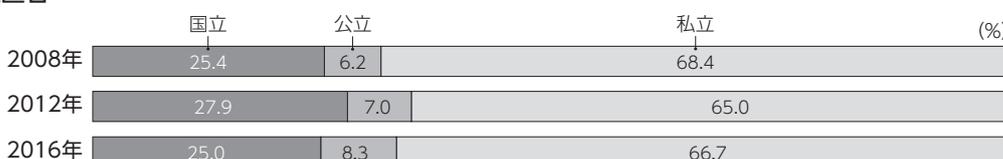


図3 学部系統

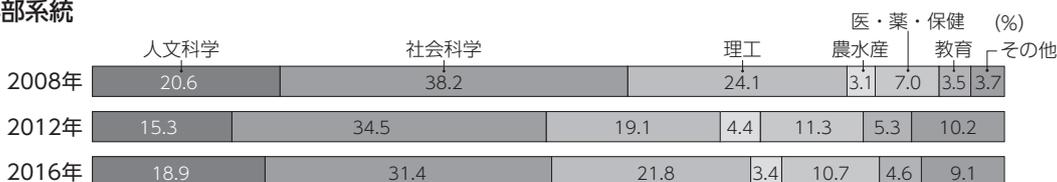


図4 入試難易度 (偏差値)



※設問「あなたの通っている大学の入試難易度にあてはまるものを1つお選びください。」に、回答者が選択した結果。

図5 大学所在地

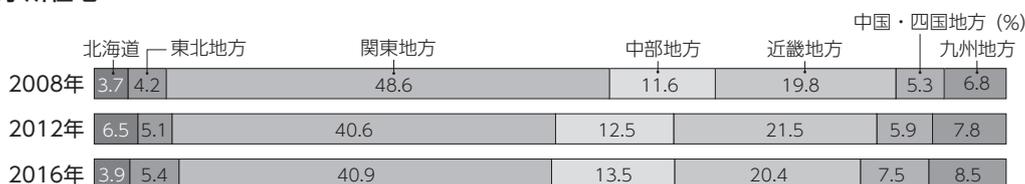


図6 入試方法

